



第5章 戦略の推進

1. 推進体制

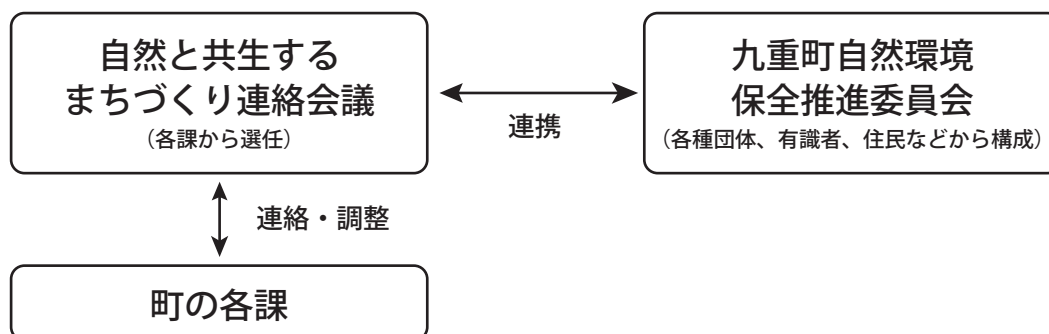
(1) 九重町自然環境保全推進委員会の設置

本戦略の円滑な推進のため、環境保全に係る団体、住民代表、有識者などからなる「九重町自然環境保全推進委員会」を設置し、次に掲げる事項の審議を行います。

1. 戦略の進捗状況に関すること
2. 戦略の周知に関すること
3. その他戦略の推進に関し必要なこと

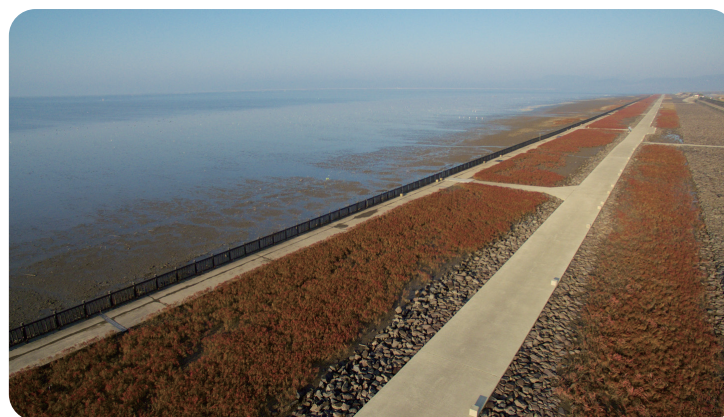
(2) 町の推進体制の確立

本戦略を推進する上で、町の各課との連絡・調整などを行う横断的な組織として、各課から成る「自然と共生するまちづくり連絡会議」を設け、「九重町自然環境保全推進委員会」との連携を図りつつ、各課の役割分担を図ります。



(3) 生物多様性保全に関する自治体連携

生きものの生育域は、自治体単位で分けられるものではありません。生物多様性保全のために、近隣市町村、玖珠川～筑後川流域及び有明海周辺の市町村、国、県との連携を図ります。



有明海（東よか干潟）▶

(4) 各主体の役割

本戦略の推進のためには、住民、事業者、各種団体、町をはじめ、様々な主体が普段の暮らしや社会生活において、生物多様性について考えながら行動することが大切です。

本戦略を推進する主体として、それぞれの主体に期待される役割を示します。

① 住民

まずは、日々の暮らしと生物多様性の関連を学び、地産地消など生物多様性に配慮した暮らしの実践を行うことが大切です。取り組みを長続きさせるためには、楽しく実践できることから始めることが必要です。

その上で、保全活動などに参加し、つながりをつくることによって、取り組みの輪を広げることが求められます。

② 事業者

事業が社会活動の中で大きな位置を占め、自然環境と深い関わりがあることを認識し、配慮することが大切です。

また、地域の様々な主体との連携や協働（パートナーシップ）を図るとともに、従業員が生物多様性に関する活動に参加しやすい職場づくりが求められます。

③ 各種団体

生物多様性に関する様々な課題に対して、地域や行政と共に、専門性を活かして解決にあたることが求められます。また、行政の専門性に欠ける部分を補い、共に普及啓発や調査活動を実施することが期待されます。

④ 町

生物多様性に関する施策を、町の各課連携のもと総合的に推進します。また、自らも事業者であり、消費者であることを認識した上で、率先して配慮に努めます。

各主体が、生物多様性に関する活動に取り組めるよう、学校教育や各主体の活動への支援、連携づくりを推進します。

2. 進行管理

本戦略における目標の実現に向けて、施策の実施状況を客観的に把握し、進行管理を行うために指標を設定します。指標は行動計画の見直しを予定している5年後の2026年度を設定します。

評価においては、数値変化のみで事業の成果をみるのではなく、背景にある複合的な問題も考慮しつつ考察を行います。

(生物多様性指標)

No.	内容	対応する20年目標	基準となる数値	目標数値(2026年度)	目標値の考え方	備考
指標1	生物多様性に関する教材作成	1,2,4,10	1冊/5年	2冊/5年	2021年度実績の1冊/5年を上回る目標を設定。教材には、紙媒体のみならず映像やデジタル等を含める	
指標2	中学生を対象としたアンケートの実施結果(生物多様性を知っている人の割合)	2	48%	80%	小学校までの教育における普及啓発を目指し、「生物多様性の意味も言葉も知っている人」「言葉だけ知っている人」の割合80%以上に目標を設定	町実施調査結果より(2021年度)
	中学生を対象としたアンケートの実施結果(町内の自然体験活動に参加したことがある人の割合)	2	34%	50%	過半数の達成を目標とする	町実施調査結果より(2021年度)
指標3	現地学習会等を開催し、地域住民が自然環境にふれあう機会創設	3,7,16	1か所/年	1か所/年	重要スポットを有する地域を中心に開催し、20年間で重要スポットの全地域において学習会が終了	
指標4	遺伝子の多様性に関する啓発活動(広報、テレビ等)実施	5	0回/年	1回/年	1年間に1回以上実施	
指標5	オオハングソンウ駆除活動参加人数	6	160人/年	192人/年	現状の取り組みを維持しつつ、新たな担い手を増やすことを考慮し、現状の1.2倍の数値を設定	各種団体の記録を基に、町が把握しているデータ(2021年度)
	オオハングソンウ駆除活動駆除重量		430kg/年	516kg/年	第5次総合計画に合わせ、2013年度比2030年度46%削減を目標とする。2026年度においては2013年度比28%削減を目指す	
指標6	九重町における二酸化炭素排出量の推移	8	113,000 t-CO ₂	82,000 t-CO ₂		自治体排出量カルテ(2013年度)
指標7	重要スポットにおける植生などの調査実施	9	1か所/年	1か所/年	年1か所詳細把握	
指標8	健康と生物多様性を組み合わせた事業の実施回数	11	0回/年	2回/年	1年間に2回以上実施	
指標9	農業の低減に取り組む団体数	12	5団体	5団体	現状維持を目標とする	環境保全型農業直接支払補助金交付団体(2021年度)
指標10	農作物の加工を行っている経営体数	12	25経営体	25経営体	現状維持を目標とする	2020年世界農林業センサス
指標11	野焼きを実施している牧野組合などの団体数	13	5団体	5団体	新しい担い手を増やす取り組みを推進しつつ、現状維持以上を目標に設定	町把握データ(2021年度)
	野焼きを実施している牧野組合などの活動に参加した人の数		282人	310人		
指標12	有害鳥獣の捕獲人数	14	81人	81人	猟友会員の高齢化を考慮しつつ、新たに担い手を増やすことにより、現状維持を目標として設定	町把握データ(2021年度)
指標13	収集ごみ(可燃ごみ)1人1日あたりごみ排出量	15	419.2g/人日	398.2g/人日	「一般廃棄物処理計画(玖珠九重行政事務組合)」と同様、H30年度比5%の削減を目標とする	
指標14	生物多様性に関する制度整備	17	0制度	1制度	生物多様性に関する制度整備を目標とする	